

日時：平成27年10月15日（木） 15時30分～17時00分

場所：松山市三番町4丁目9-5 松山センタービル 4階 第1会議室

(提出資料) 第1回資料、次第書、委員名簿、その他

(議題)

1. 中心市街地の現状と課題

1-1. 内容について ・松山市より、資料に沿って中心市街地の現状と課題について説明した。

1-2. 質疑応答

A委員より

歩行者交通量については、アエルオープンの当日なのでそこまでは増えていない。平日はほぼ平準化した。アエルが無い時期に、一番町から二番町間の交通量が激減（4割）していた。二番町と三番町の間は2割減くらいであった。アエルがオープンして一番町の端っこまで大街道の賑わいがつながった。ここだけでというと2～3倍の人があつまった。

昔はそこで待ち合わせをしていたが、今はローソン前になっている。アエルが出来て、晴れの日の夜は非常に効果がある。

いろいろな声を聴くと、前のイメージが強く、アエルの物販の物足りなさが指摘されている。

2. 街なか（公共・民間）の活用

2-1. 内容について ・受託事業者より、全国事例・松山市事例の紹介を行った。

2-2. 質疑応答

B委員より

実証実験において、平日・休日の違いはあるか。

事務局より

休日の方が人は多い。平日の場合は、昼過ぎから人が出てくる。通りすがりの学生やビジネスマンが利用する。お年寄りも時間帯を問わず訪れる。休日は家族連れが多くなる。時期はアエルオープン前後に行ったが、アエル効果で家族連れが多かった。子供連れだと一人待たせてちょっと買い物というのがあった。子供だけでいさせる場合も見られた。

C委員より

絶対数の中では、若者の割合が高いのか？

事務局より

アンケートに答えた中だと若者世代が多い。

若者の方が新しいものに対する抵抗感がない。座る場所をいろいろと用意したいが、外向きにおいてあるベンチに短時間休憩のお年寄りが多い。

一定の決まった時間に訪れる方もいた。

D委員より

空間の作りこみの仕方で抵抗感の有無もある。

- 事務局より 緑の量もいかに心地よい空間を作るかという観点で配置し、アンケートでも好意的・効果的に受け止められている。
- あまり作りこみすぎるとお店と間違える方もいるし、どうでもいい空間になってもよくない。小汚いベンチはいやだが、キレイにしているので座りたいという話があった。ちゃんと管理した上で、オープンにするという空間のつくり方が重要。
- E 委員より リピーターの調査はしているか。
- 事務局より 行った。期間が2週間程度なので、効果を確認するにはもう少し時間が必要かもしれない。
- F 委員より 60席という大規模に行ったのがよかった。
- 座れる場所が無かったわけではないが、オープン当初から石のベンチなどを置いていた。20年前から十年ほど、街が荒れた時期があった。その時に撤去を行った。その後、目安箱など市民の意見を聞いているが、その中でも座れる場所の要望がある。その意味でも実験はよかった。松山のまちは警察も含めて他の街よりもいろいろなことが出来る。自分で管理さえすれば椅子も出すことができる。これまでは商店街側からの一方通行だった。今回のように商店街以外の民間が入っていただいたので、分かりやすい実験が出来たと思う。これだけ体系的にやると、商店街のなかでもやってみたい。お客からもなんでやめたという話が出ている。銀天街でも椅子を抱えているし、一体感というのも大事かもしれない。今後やっていかなければならない。トイレや案内所なども含めて、色々な試みを行っていきたい。
- G 委員より お店のほうから手が挙がっているのか。
- H 委員より 毎日出し入れをどのように継続にするかが重要。お店にとってもそういう座る場所があることに価値があると分かれば繋がっていく。商店街組合が旧ポエムに入るが、トイレも整備も含めて、どのようなことをやっていけばよいか一緒に考えていきたい。
- I 委員より 時代は変わるのだなという思い。皆さんの要望は前からずっとあった。しかし防犯上安全上の問題もあり、様々な取組をしていた。いまに始まったことではないが、実際に実験箇所を通った時に思ったのは、デザインの重要性がこんなにも大事だということ。椅子とテーブルでも受け入れられ方が全然違う。前は荒れた若者などで占領されていた。今回は可動椅子や収納することができる等、また緑の配置が絶妙。目線が合わなくて居心地がよいパーソナルスペースになるような配置だった。ただ置くのではなくて、相当研究されたと思うが、そういうことが大事だと痛切に感じた。ただ置けばよいわけではないということがわかった。

J 委員より 銀天街に関しては、植樹祭の記念の木の椅子がある。出し入れを毎日しているが、重く大変である。お店によっては広いお店や小さいお店がある中で、全部が全部協力できないというのが現状。そういうのを考慮した上で安全性と携帯性が重要。専門家の知恵をお借りするなど、今回の実験をみて、持続的な取組になると思う。

K 委員より 似たような話は前からやっている。共通点としては自転車問題と一緒に。実証実験をやるのはいいが、その後どうするのが重要。役所の方針として継続性が疑問である。自転車問題は行政と相当やったが、役所の縦割りでバラバラであり、まとまっていない。実証実験を行ったその後が気になっている。本件には非常に前向きなイメージだが、出来なかった歴史の蓄積があることわかってほしい。デザインでやって変わるという話と、少子高齢化で若い人が減ったのでうまくいっている。植樹祭のベンチが重いのが、軽かったらすぐに壊れるので重くしている。今回の実験でもそこが気になった。半年たったら汚れる。誰が管理をしていくのか、そこが気になっている。

L 委員より 可能な形で出来ることから持続していくということが重要である。この部会で作ればよい。

### 3. 一体型空間形成と実証実験の概要

3-1. 内容について 松山市より内容の説明を行った。

#### 3-2. 質疑応答

M 委員より ある一部のエリアのために、誰がそこにお金をかけるのか、極論すると、個人利益のためになってしまうのでは。また大街道だけの話なのかとなっている。空き店舗と公共空間利活用とセットになっていると思った。それ以外は前向きなので、是非大街道だけではなく銀天街でも展開されたい。行政と一緒にやっていきたい。

N 委員より 管理の話はとても重要。この資料に管理の話が抜けている。実験の際に、設置時間やかかる費用などのデータを取ってほしい。銀天街やみんなのひろばにも使える。

O 委員より 通った人は分かるが、一般の人は分からないのではないかと。実証実験だということが理解できるか。

事務局より 広報まつやまに掲載予定であり、その他の広報戦略についても考えている。サインや分かりやすいチラシ、パンフレットを作成予定である。

P 委員より 成功かどうかはやってみないと分からないが、成功事例であれば商店街に必要なとなる。2回3回と続けられるような持続可能な実証実験であればと思う。

- Q委員より           なぜ突然無くなったのかという意見もあった。ただ、理事会でも話があったが、本当に座るのかという意見があった。実際に緑もうまく配置して多くの方が座ってくれた。座らせるにはと考えたときに子供の話が出たので、次回とても興味がある。その後をどうするのかという話においては、実験に使用予定の椅子やテーブルでよいのかという議論はすべきだと思う。
- 事務局より           植栽はかなりお金をかけてやった。管理の持続性が重要だと理解している。次回、市の実験ではコストも見ながら、緑を家具に置き換えながらやるなど、検討したい。
- R委員より           銀天街でコスモスや菜の花などをやったが、植物をアーケードの下でやるのは難しい。やるならしっかりとやった方がいい。お茶を濁す程度はやめた方がいい。
- S委員より           歩きたばこなど、条例などでやってほしい。歩きたばこがあるうちは植木鉢も灰皿になってしまう。いろんな決め事をきちんと決める必要がある。商店街からの一方通行の発意だと言われたくない。ぜひ行政とやっていきたい。
- T委員より           質問であるが、空き店舗と公共空間実施用実験の関係はどのようにとらえればよいか。
- 事務局より           次回の専門部会までにはいくつかの案を検討したい。いろいろな連携の手法があるが、今回の実証実験の結果も含めて検討したい。まずは公共空間の使い方を検討する。事業のなかではリノベーション等の可能性を検討している。また次回に議題を出したい。
- U委員より           来年度以降は空き店舗を活用した実験などをやれればと思う。
- 事務局より           管理問題についてはいろいろな考え方がある。既存店舗のチカラを借りるというものもある。管理の在り方については調査をやっていきたいが、実証実験のスピード感にはついていけない。管理問題として、空き店舗を一体で活用するというプログラムもあり得るが相手がある話なので、今後も見据えて空き店舗前で行うこととしている。
- V委員より           タウンボードや目安箱など自分たちでやっている。補助金はほとんどプレミアム商品券になっている。今回の事業は今年の目玉である。
- W委員より           リノベーションを一緒にやったらいいと思う。北九州などの事例を見たが、地価が低いところでやるべきでは。地価が高いところで行うと後に問題になる。

事務局より

リノベーションに税金を投入することではない。

北九州の事例では、人材育成には税金が投入されているが、リノベーション自体には入っていない。純粋な民間事業として行われているが、重要なのは、入ってくる事業者のパブリックマインドである。その際に、その志や思いを公共のスペースにも出してほしいという意味から空き店舗前で実験を行う。

X委員より

地価で高いところよりも、低いところでやるほうがよいと思う。大街道・銀天街・L字をどうするかを考えていった方がいい。

#### 4. 次回にむけて

Y委員より

実証実験そのものについては好意的な意見だったので進めて頂く。今後の運営上の課題も含めてコストや負担をしっかりとめて頂く。空き店舗については主旨やどういう問題を解決するためにやるのかから整理したほうがよい。